

# ヒューマンレポート



ひとりのために みなさまのために 平成29年 臨時号

## <議会質問>

### 食品ロス削減対策を質問

昨年11月議会において、食べられるのに捨てられてしまう食品「食品ロス」削減について、家庭などで余った食品を、常設の拠点などで集め、NPO法人を通じて、生活困窮者に届ける「フードドライブ」を推進するように提案致しました。当局は、中区栄の環境学習センター(エコパルなごや)を、実施拠点として本格的に開設する方針を明らかにしました。



5月より毎月8日から14日まで(午前9時30分～午後5時)、月曜日休館日を除く日に受付致します。但し、5月、10月は月曜日も受け付けます。尚、より身近な拠点についても、場所や機会を幅広く検討していくとの事です。

※ お持ち頂く食品の条件などは裏面に記載

### ◎ 環境学習センター(エコパルなごや)

中区栄1丁目23-13 伏見ライフプラザ13階 ☎052-223-1066

## <実績>

### 男性向け面接相談開設

「男性の方で、一人で悩んでいませんか?」家庭、仕事、人間関係の事などで悩んでいても、誰にも相談できず一人で抱えていたり、自分を追い詰めたりするケースが少なくない現状があり、委員会で男性面接相談の開設を推進、設置致しました。

### ◎男性相談(秘密厳守・相談無料)



- ・電話相談 毎週水曜日 午後6時～8時
- 第4日曜日 午前10時～正午
- ・面接相談(予約制) 第4木曜日 午後6時～8時

まずは電話相談でお悩みをご相談ください。

☎ 050-3373-6966

ご相談・ご要望がありましたらいつでもどうぞ

みわ よしひろ

名古屋市議員 三輪芳裕

〒468-0056

名古屋市天白区島田4-2213-1

TEL 806-5781 FAX 806-5782

E-mail: miwa@komeinagoya.jp

http://y-miwa.com

# ご家庭にある

消費しきれないいただきものの詰め合わせ、お米、缶詰等ご家庭で眠っていませんか？



# 消費しない食品※をお持ちください！

※ 集める食品の条件（セカンドハーベスト名古屋基準）

- 包装や外装が破損していないもの
- 生鮮食品以外のもの
- 冷蔵・冷凍食品以外のもの
- 瓶詰めの食品でないもの
- 未開封のもの
- 賞味期限が明記されており、またそれが1か月以上先のもの
- 包装や外装を他のものに移し替えていないもの（お米は除く）

## お持ちいただきたい食品・飲料

- ・お米（特に現在不足しています）
- ・缶詰（肉、魚、野菜、果物など）
- ・インスタント・レトルト食品（カップ麺、カレーなど）
- ・乾物（パスタ、うどん、蕎麦など）
- ・ギフトパック（お歳暮、お中元等、贈答品の余剰など）
- ・お菓子
- ・調味料（食用油、醤油、味噌、砂糖など）
- ・シリアル
- ・飲料（ペットボトル飲料、缶ジュースなど）
- ・フリーズドライ食品
- ・嗜好品（コーヒーパック、お茶パックなど）
- ・乳児用食品



公 明 新 聞

2017年(平成29年)4月15日(土曜日)

## 「もったいない」を「ありがとう」に！

名古屋市

食品ロスを減らし、「もったいない」を「ありがとう」に。家庭などで余った食品を提供する取り組み「フードドライブ」が、名古屋市の環境福祉センター「エコパル」で「もったいない」の月7日から同月10日まで「もったいない」好評博覧会。5月中旬から同センターでの本格運用予定されている。推進した公明党の三輪泰裕市議員は「ぜひ、同センターを訪れ、担当者から話を聞いて」と呼び掛けている。



市環境福祉センターを訪れ、食品が集められたスペースで訪れた同市議員。

今回のフードドライブで、調味料など、約300kg分の食品が持ち込まれた。重冷蔵・冷凍食品以外未開封のもの、6日間で鮮度が保たれる缶詰が中心。認定NPO法人「セカンドハーベスト名古屋」が主催。

## 「フードドライブ」の拠点開設 食品ロス減らし福祉利用

### 5月から本格運用 寄贈品を生活困窮者へ

名古屋を通過して、生活困窮者や福祉施設などに無料で届けられる「セカンドハーベスト名古屋」は、2009年から本格的に活動している。14年度からは、名古屋市社会福祉協議会と連携し、地域で孤立した「個人」などへの支援を開始。区役所や自立支援窓口を訪れた人が市側から食料支援が必要と判断されると、その世帯ごとに年輪、家族構成などに応じた食品の詰め合わせ「12品」を、急いでお届けする。16年は、市内の約600世帯に864箱の食品パックを提供した。中には、「口を開けても何も入っていません」「お米が自分があるかただったため、本当に助かりました」と受け取る人が続出したという。

市環境福祉センターを訪れ、食品が集められたスペースで訪れた同市議員。

源は推進委員谷口由香氏は、今回のプロジェクトで実施されたアンケートを紹介し、実施予定のフードドライブを利用する「条件が合えば利用する」が割だったと三輪市議員に説明。市環境福祉センターの小木原史香主任は「毎年、センターには1万の子どもたちが来場するなか、この問題を『もったいない』の精神を学ぶ機会になれば」と語っていた。

### 公明が推進

これまでセカンドハーベスト名古屋の活動を推進し、生活困窮者の実情を知った三輪市議員は昨年1月定例会で、フードドライブの取り組みが食品ロス削減だけでなく、生活困窮者の自立支援に果たす役割も大きいと強調。市が後押しを推進すべきだと主張していた。

三輪市議員は「今後、開港日時や地区別の距離差などに配慮し、食料品を持ち込む人と受け取る人が共に暮らせるような体制を構築していく」と決意を述べた。